◆保護のワシ、卵孵らず

４月号で保護中のオオワシ・オジロワシペアがそれぞれ産卵したことをお伝えしましたが、残念ながら、孵化にいたりませんでした。オオワシ・オジロワシの抱卵日数は約40日ですが、40日を過ぎてもヒナの姿は見えず、その後卵殻の破片が見つかり、おそらく腐敗、破裂したものと思われます。オジロワシが産卵した２卵のうち１卵は釧路動物園で仮親のハクトウワシに抱卵させていましたが、こちらも孵化にはいたりませんでした。複数の会員の方から「卵は無事孵りましたか？」というお電話をいただきました。残念な結果となりましたが、多くの方が気にかけてくださっていたことにお礼申し上げます。

◆常呂町からオジロワシ保護収容

４月21日常呂町福山で畑の周囲に張り巡らされたエゾシカよけ漁網ネットにオジロワシが絡み動けなくなっているところを保護されました。環境省の指示で知床博物館に移送、収容しました。血液を採取し、検査したところ、鉛中毒ではありませんでした。

大きな外傷は見あたらず、食欲もありますが、どうも元気がありません。頭部の羽毛が白っぽく、とても美しいワシで、かなり高齢のようです。元気がないように見えるのは高齢のためでしょうか？とりあえずもう少し様子をみて元気を取り戻せば放鳥の予定です。

◆カメラ付き巣箱にモモンガ入居中！

博物館では赤外線カメラを天井に取りつけた巣箱を野外観察園に設置し、その映像をホールで公開しています。昨年秋より２匹のモモンガが入居していましたが、春以降１頭になっていました。

３月28日午後２時ごろ、モニターから「グーッ、グーッ」とけたたましいモモンガの声が聞こえてきました。何事かとモニターを見ると、１頭のはずが２頭のモモンガが巣箱内におり、取っ組み合いをしています。そのうち１頭は巣箱の外に追い出されてしまいました。しかし追い出されたモモンガもあきらめずにまた巣箱の中に入ろうとします。立ち去ろうとしない侵入者に根負けしたのか、ついには追い出されたモモンガは巣箱に再び潜り込み、２頭とも何事もなかったかのように巣材にくるまり、静かになりました。

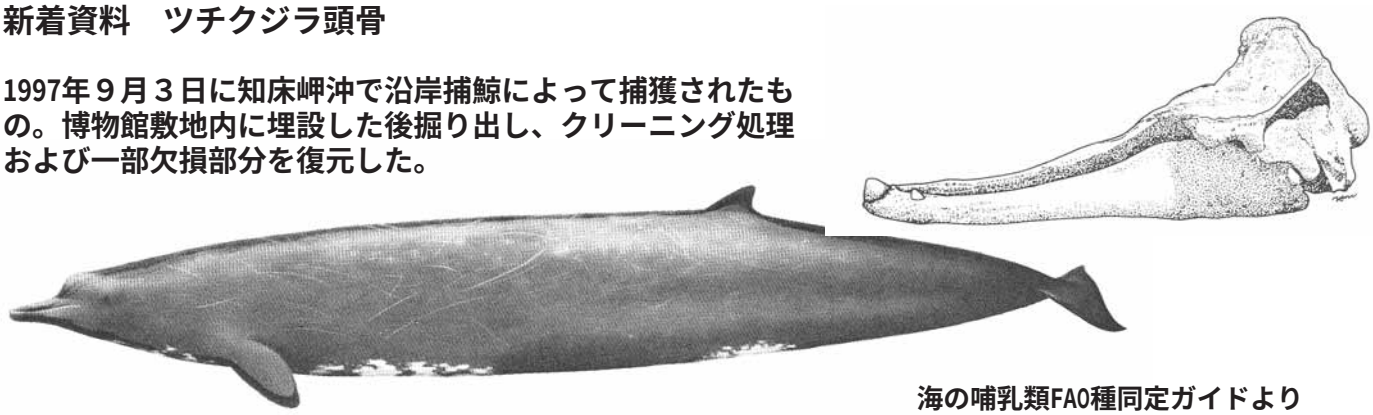
翌日モニターをみると、再び１頭になっていました。ひょっこり現れたあのモモンガは何者だったのでしょうか。夜行性のモモンガが昼間に動き回ることは珍しいことです。最初はけんかかと思いましたが、もしかしたら、巣箱にもともといたモモンガはメスで、交尾のためオスのモモンガが侵入してきたのかもしれません。この時期はちょうどモモンガの交尾期にあたります。真相はわかりませんが、今も１頭巣箱に入居中です。これがメスで、妊娠していればそろそろ出産のはずです。子育てのようすが観察できれば、と期待しています！

巣材から顔を出したモモンガ

（増田）

新着資料　ツチクジラ頭骨

1997年９月３日に知床岬沖で沿岸捕鯨によって捕獲されたもの。博物館敷地内に埋設した後掘り出し、クリーニング処理および一部欠損部分を復元した。



海の哺乳類FAO種同定ガイドより

図:211 ツチクジラ

事務局より

今月号は会費納入願いや、銀行口座引き落としの案内をお届けいたします。今年度の会員証もただいま作成中！出来上がりをお楽しみに！

発行　知床博物館協力会　2002.5.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49　斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/